



あいさつ、芸術、心の働き

校長 高橋 実

4月に入って、「今年度も頑張ろう！」と思っていた矢先に腹痛を起こし、それでも健康だけが取り柄と信じていたので、今回も簡単に考えていたのですが、なんと5月半ばからひと月もの療養をすることになってしまいました。児童や保護者の皆様には、校長不在の間のご迷惑やご心配をおかけし申し訳ありませんでした。幸いにも素晴らしい医師や看護師等の病院スタッフに恵まれ、順調に回復することができました。

学校に戻ってきた日の朝に、いつものように昇降口で子どもたちとあいさつを交わしていると、子どもたちは、おっ！という顔をして一瞬驚く人、元気になったの？とお腹を触ってくる人など様々で、そして何人もの人に「退院おめでとうございます！」と声をかけてもらい、とてもうれしく思いました。気のせいかもしれませんが、前よりもあいさつの声が大きくなったように聞こえました。「おはようございます！」と繰り返しているうちに、なぜか心の奥の方から感動がわいてきて、声が震えました。子どもたちとこうして朝のあいさつを交わせる幸せを改めて感じた次第です。

一昨日、自治会長様など地域の方々やキッズ・学童の方々においでいただき、学校づくり懇話会を行いました。その中で、3月から北門の下の交差点で見守り活動をしてくださっている方からこんなお話をいただきました。「最近、見守り活動を始めた頃より、とてもあいさつができるようになりました。そして朝だけでなく、放課後に町で出会った時などもお互い顔がわかるので、あいさつをしてくれるようになり、子どもたちが地域の大人とつながることは地域防災の観点からもいいことではないかと思えます。」ありがたいことだと感謝の思いで聞いていました。新田小学校は、横浜市で行っている「学援隊」という制度を使っていません。北門下交差点での活動のように、こうした活動が色々な地域で広がって定着し、いつか学援隊を立ち上げられればと思います。

学校づくり懇話会では、もう一つ心に残る話がありました。新田小学校の中期3か年計画の説明の中で、子どもたちの情操を豊かにするために、本物の芸術に出合わせる機会を作りたい、という話をしたことを受けてくださり、ある自治会長様が「教育には、『知情意』が大切です。本物の芸術に子どもたちを出合わせることを是非積極的に行ってほしい。」とお話してくださいました。「知情意」は、横浜版学習指導要領の「知・徳・体・公・開」よりもさらに心の働きに特化した言葉であり、人間の精神活動の根本である「知性・感情・意思」の3つの心の働きを表す言葉です。改めて「知情意」という言葉のもつ意味と教育における大切さを考えてみました。そして、日々の教育活動の中で、この言葉を意識し生かしていくことが今後ますます大切であると思いました。